

学修観メタ認知を活用した 支援の可能性 (学修観WG)

日本工業大学 河住有希子

UeLAフォーラム2025及びJADE & UeLA 合同フォーラム
2026年3月4-5日 於：信州大学

アウトライン

- ・大学時代に育成する力
- ・学修観調査と学習者特性
- ・学生へのフィードバック（個票）
- ・学生との面談（13尺度81項目）
- ・授業内での運用（3因子）
- ・教員による学生理解のために
- ・今後に向けて

大学時代に育成する力

予測困難な時代において生涯学び続け、
主体的に考える力の育成（中央教育審議会H24）

「社会人基礎力」「学士力」、就業力、ジェネリックスキル、キーコンピテンシー

生成AIの時代
メタ認知能力、自己省察と自己調整学習等がますます重要に！

学ぶ力の現在地をどう捉え、学び続ける力をどう育てるか
⇒「学修観」を一つの指標とする

学修観

学習者特性を診断・可視化するシステムの開発と評価

山川 広人・たなか よしこ・小松川 浩 教育システム情報学会誌 Vol. 33, No. 2 2016

学修観 (learning belief) とは

学習のしかたに対する「考え方の特性」

学習内容ではなく、学び方・捉え方に関する志向

学習者が「どのように学ぼうとするか」を捉える枠組み

学び方のメタ認知

学修観調査 81問（13尺度）

学修観（市川伸一ほか 24問 4尺度）

「失敗に対する柔軟性」「思考過程の重視」

「方略思考」「意味理解思考」

学習動機（市川伸一ほか 36問 6尺度）

「充実志向」「訓練志向」「実用志向」

「関係志向」「自尊志向」「報酬志向」

精神的回復力（小塩真司ほか 21問 3尺度）

「新奇性追求」「感情調整」「肯定的な未来志向」

学修観調査と学習者特性

13尺度を
「学習者特性」の因子として再整理
山川ほか（2016）

因子1：考えようとする意識
思考・感情のコントロール

因子2：行動しようとする意識
未来志向・学習への姿勢

因子3：周りの評価を気にする意識
対人・評価意識

因子① 感情調整
失敗に対する柔軟性
思考過程の重視
意味理解志向
方略志向

因子② 新奇性追求
肯定的な未来志向
充実志向
訓練志向
実用志向

因子③ 関係志向
自尊志向
報酬志向

学生へのフィードバック（個票）

大学名: ○○大学

学部: △△学部

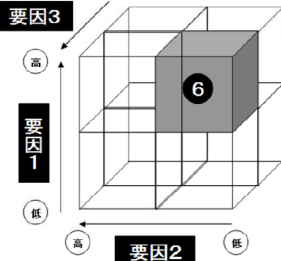
学科: □□学科

学籍番号 1234567

氏名 山田 太郎

あなたの総合的特性

HLH型



感情調整
失敗に対する柔軟性
思考過程の重視
意味理解志向
方略志向
High

新奇性追求
肯定的な未来志向
充実志向
訓練志向
実用志向
Low

関係志向
自尊志向
報酬志向
High

友達や先生との関係を大切にし、自分の感情をコントロールしながら勉強を進めているところは良いです。学習していることの中身の大切さについてももう少し自分に引きつけて考えましょう。そうすると、将来設計を考える力や新しいものを受け入れる力がつきます。

英語得点

8

数学得点

13

日本語得点

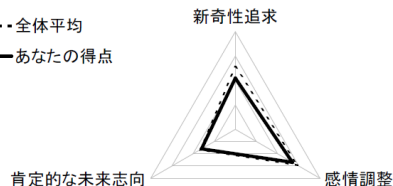
509

大学生活で本を読んだり文章を書く機会を増やしましょう。日本語の検定を受けたりするのもいいでしょう。4年間かけてゆっくり伸ばしましょう。英語を勉強しつつ日本語の論理的構造も学びましょう。特にプログラミングなどでは必要な力です。数学の授業の前に予習をしっかりやりましょう。一人で難しいときには他の人に相談しましょう。

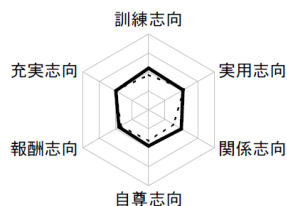
なお、この調査は、下の3つの心理尺度を用いて、それぞれの心理的な傾向がどれくらい強いかを測っています。ですから、1つの心理尺度の得点が高いか低いということはあまり重要ではありません。それぞれの項目・志向がどの程度で全体としてどうであるかという全体のバランスに注目し、上の「あなたの総合的特性」としてどんな傾向があるかを全体を8つのタイプに分類して示しています。自分の考え方の特徴を知ること、自己理解を進め、大学生活をより充実したものにするためには何をがんばればいいのかという視点での分析です。

精神的回復力

----- 全体平均
——— あなたの得点



学習動機



学習方法を支える学習観



日本工業大学の個票

学生との面談（13尺度81項目）

Q1 どう思う？（まずは本人にコメントを求める）

個票の中のことばをいくつか説明

「充実志向」、例えば、学習そのものに対する興味を持っているということ。

「関係志向」、学習そのものに対する動機ではなく、周りの友だちや先生に
ひっぱられて勉強しようと思う気持ち。

「肯定的な未来志向」、自分の将来に希望がある思っているということ。

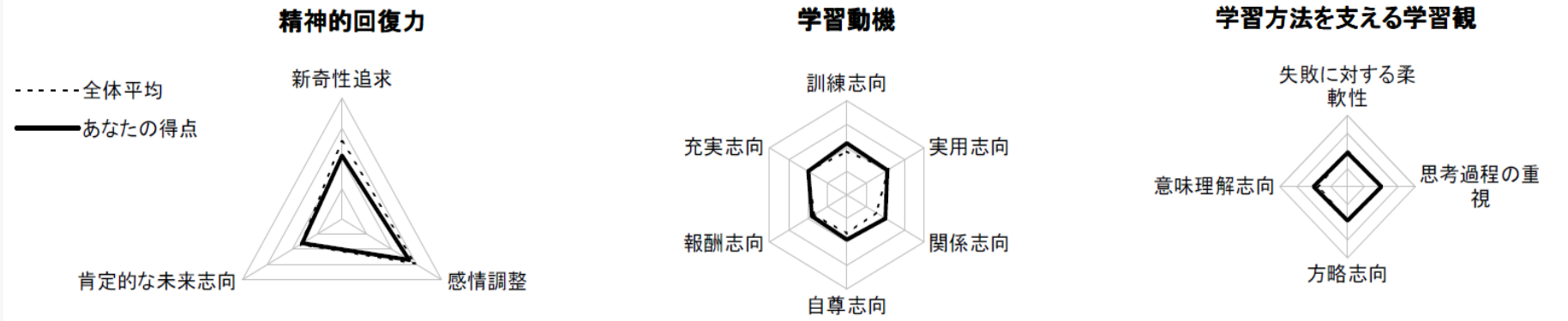
Q2 なぜそうなったと思う？

Q3 Q2による変化は、自分にとって意味があることだと思う？

Q4 （上級学年なら）大学入学時と今で変化していると思う？

Q5 これからの課題は何だと思う？

教員による学生理解のために①



学習動機

全体の上下のバランスが取れていると、向学心が高く進んでいける。下半分だけが顕著に大きいチャートになっている場合は、利益が得られない時に目的を見失い可能性もある。

学習方法を支える学習観

思考過程の重視と意味理解志向（水平の要因）が高い一方で、学力が追いつかないと自己肯定が下がってしまう場合がある。

垂直にある失敗に対する柔軟性と、方略志向(試行錯誤)ができないと、水平方向だけでは八方塞がりになる場合もある。

授業内での運用（3因子）

授業の目的（初年次教育科目）

- 自己調整学習の力を養う
- 学習言語としての日本語力を高める

授業内容

観察、思考を書き出し、フィードバックを受けながら更新する

学期末に全回の記録を冊子にまとめる。

その際、総括のページに自身の学修観を振り返って記述する。

- ・考えようとする力
- ・行動しようとする力
- ・認められようとする力

授業内での運用（3因子）

冊子を作るときに
「学習観」の考え方を説明

後日、集計結果を加えて
冊子を返却。
自分自身の言葉での振り返りと
他者との数値上の比較結果を
対照する。

希望者に対しては
個別の面談を実施。

|「自分自身の学修観を知るための81問」へのフィードバックです。

81問の質問に対して、自分自身が選択した回答（自己評価）に基づいています。

H・Lは、全国の大学生が行った自己評価から相対的に見たときに、あなたの自己評価が
高い傾向（H）にあるか、低い傾向（L）にあるかを示しています。

これは、良い・悪い、の評価ではありません。

自分自身の自己評価と、他の学生と比較したときの評価が同じである場合も、異なる場合も

あると思います。そのようなことも含めて、「自分自身を知る」ことがこの調査の目的です。

自分の考え方に改めて気づき、自分のどのような面を伸ばしていくかを考えるきっかけとしてください。

考えようとする力 H ・ L

行動しようとする力 H ・ L

認められようとする力 H ・ L

教員による学生理解のために②

学習者特性と教員による評価

理工系専門基礎科目の記述式問題に対する教員の評価と学習者特性

採点（5段階）

- 5 「必要な情報が整理されて記述されている」
- 4 「複数の情報が未整理の状態で見述されている」
- 3 「一つの情報だけが記述されている」
- 2 「キーワードだけが書かれている」
- 1 「誤答、無回答など」

特性	5点	4点	3点	2点	1点
HHH	1	1	3	—	5
HHL	3	4	—	1	1
HLH	—	—	1	—	2
LHH	—	2	1	2	2
HLL	—	1	—	—	1
LHL	—	2	—	1	1
LLH	4	3	2	2	3
LLL	2	—	—	2	1

表中の数値は人数

教員による学生理解のために③

学習者特性、日本語力と学習の傾向

日本語力が高い（高2レベル以上）で、

自己肯定感が**高い**学生

自己肯定感が**低い**学生

→学習意欲を維持することで、学んでいける傾向

日本語力が低い（高1レベル以下）で、

自己肯定感が**高い**学生

→学べない原因を、他者に求める傾向

自己肯定感が**低い**学生

→学び方を見つけることが難しい傾向

今後に向けて

eポートフォリオでの運用

- ・学生が定期的に振り返りを記述する。

そのきっかけとしての「学修観調査」と集計結果

履修科目の成績やGPAとは別の観点で、

「学修観」により在学中の変容を記述する。

「社会人基礎力」「学士力」、就業力、ジェネリックスキル、キーコンピテンシー

- ・教員も学生の見取りや授業改善において参照可能。

ありがとうございました

河住有希子

日本工業大学共通教育学群